

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

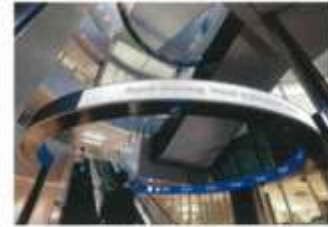
ふ り が な	としんぶにおけるきばんせいびのありかた～こくどう246ごうしぶやえきしゅうへんせいび～
1. 事業(施策)の名称	都心部における基盤整備のあり方～国道 246 号渋谷駅周辺整備～
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和2年7月 21 日 ～ 令和7年3月 31 日
3. 事業費(工事費)	8,088 百万円
4. キーワード	4D シミュレーションによる施工検討、官民連携、維持管理、歩行空間の確保
5. 事業概要	一般国道 246 号渋谷駅周辺整備は、駅周辺における歩行者空間不足や、谷地形と言われる不連続な歩行者動線などの問題を解消するため、関連する鉄道事業、駅街区事業等とともに、地下歩道・歩道橋の整備により、公共交通機関への乗り継ぎ利便性の向上、歩行空間のバリアフリー化・快適性向上を行うとともに、国道 246 号の拡幅を行うことにより、交通渋滞の緩和・交通安全性の向上を図り、交通結節点の機能を強化する事業である。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a) 西口地下歩道整備 (b) 官民連携での整備	(a) 4D シミュレーションによる施工検討 (b) 官民連携での維持管理
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 快適な歩行空間の確保 (b) 官民連携によるコスト縮減 (昇降機の整備等)	(a) 工期短縮 (b) 官民連携によるコスト縮減 (維持管理予算の縮減等)

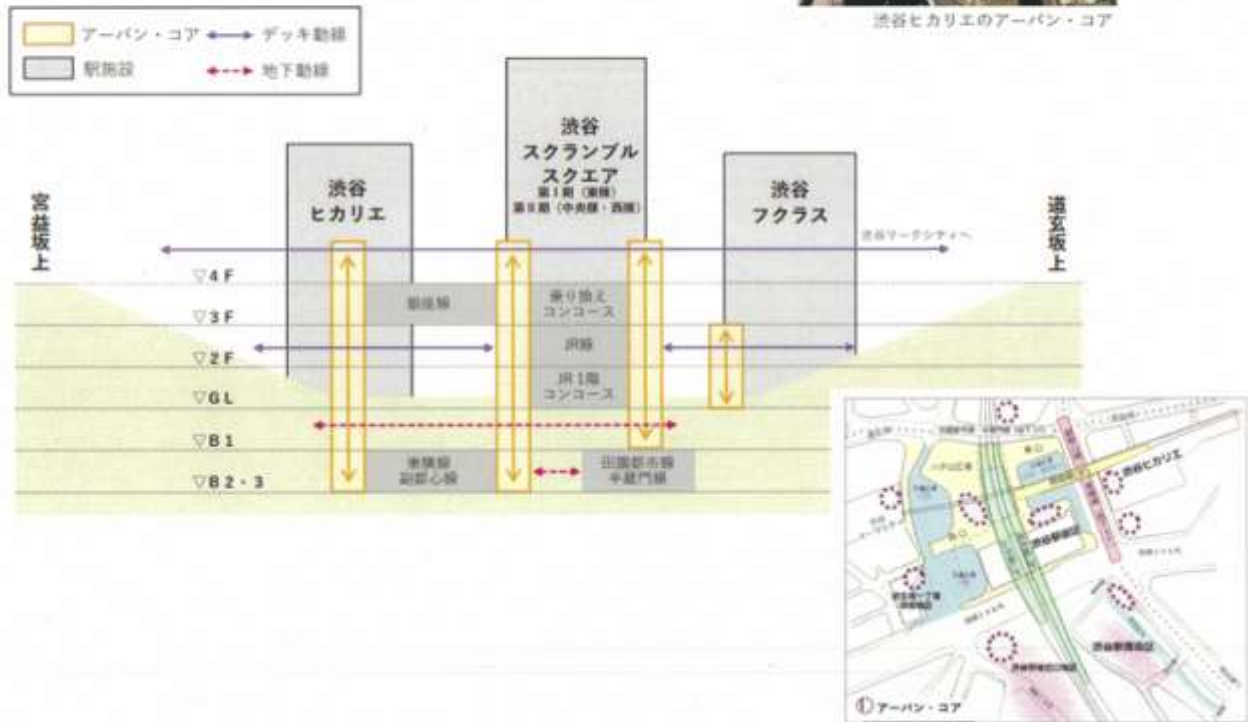
7. 特にアピールしたい点
【アーバンコアを整備し、誰もがめぐり歩いて楽しいまちへ】 渋谷駅周辺は商業・業務施設が集中する日本を代表する都市の一つである。 鉄道4社9路線が乗り入れ、日々約 300 万人の乗降客数を誇るため、人が集中することにより、歩行者空間が混雑している状況であった。また起伏に富んだ谷地形や国道 246 号や鉄道により駅と街が分断されていたことから乗換機能も低く、交通結節機能が不十分であった。そのため官民連携により、再開発と合わせて歩行者動線を大きく改良し、安全性と回遊性を高め、安全で快適なまちの実現を目指すべく取り組んできた。 具体的には、快適な歩行者空間の整備のため、歩行者デッキ、地下歩道の整備とアーバンコアの整備を実施した。国道施設として歩行者デッキ・地下歩道を整備し、再開発ビルや駅施設等の民間施設と直接接続することで、横移動ができる動線を確保した。合わせて、再開発ビル事業者に昇降施設を再開発ビルの入口付近に整備いただき、快適に地上と地下をつなぐ歩行者動線(アーバンコア)を整備し、上下移動ができる縦動線で、快適な歩行者ネットワークを実現した。民間施設内に昇降施設を整備することで、整備に関するコスト、管理コストの低減を図っている。 令和6年7月に民間ビルのサクラステージの開業に合わせて、西口地下歩道が暫定供用した。国道 246 号を横断する既存の東西の歩道橋や東口地下歩道と合わせて、駅と街をつなぐ歩行者動線が概成した。また、西口地下歩道の工事に合わせて、国道下の民間ビル駐車場への車路を民間事業者負担で整備することで、民間ビルの接続機能も向上させている。

1 アーバン・コアの整備

スリパチ状の地形である渋谷の縦移動を便利にするため、地下と地上を結び人々を誘導する、街に開かれた縦軸の移動空間「アーバン・コア」を各所に整備。エレベーターやエスカレーターによって多層の都市基盤を上下に結びます。



渋谷ヒカリエのアーバン・コア



アーバンコアの概要図

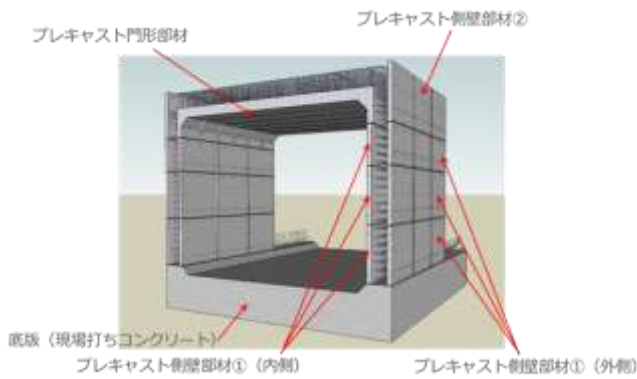


民間再開発事業と国道施設の接続状況

【地上、地下とも限られた敷地内での地下歩道施工の工夫、効果】



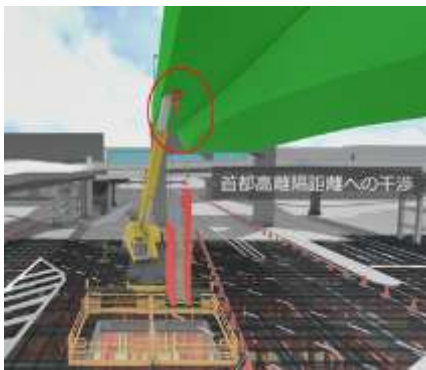
地下舗装整備箇所



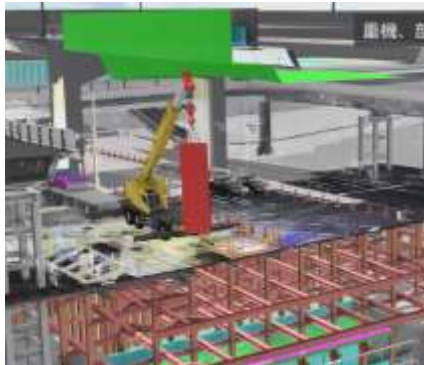
プレキャスト製品を活用した大型ボックスカルバート



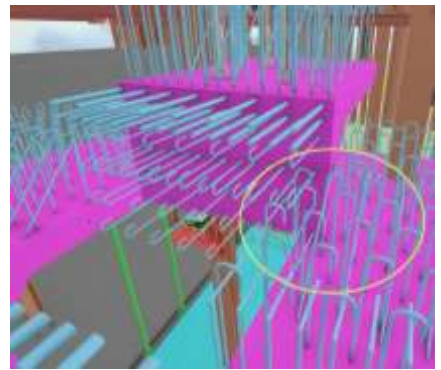
VRによる施工検討



首都高など近接構造物の干渉確認状況



重機や資材を配置し施工状況を検証



材料投入時の鉄筋や支保工との干渉確認

【官民連携での維持管理の工夫】



維持管理収益還元サイクル



広告状況(渋谷駅西口国道デッキ)